

書名：日本列島ハザードマップ
：災害大国・迫る危機

著者：朝日新聞社

出版社：朝日新聞出版
出版年月：2013年3月
総ページ数：119ページ
ISBN：9784022510600



推薦者

足立奈津子

鳴門教育大学大学院准教授
自然系コース（理科）

紹介する本は、2012年9月から2013年3月まで朝日新聞に『災害大国 迫る危機』と題して連載された記事を再構成したものです。本書の冒頭（p. 3）に書かれているように、「日本は、地球の陸地のわずか0.25%の面積しか占めないのに、世界の地震の約2割が集中し、活火山の7%が存在する国です。また、台風が北上するコースでもあります。日本は、先進国の中でも高い自然災害リスクを抱えた地域なのです。」私は、学生の皆さんに、身の回りにどのようなリスクが潜んでいるのか再度意識してもらいたいと考え、この一冊を選びました。

本書では、初めに、活断層、津波、地盤、斜面崩壊、インフラ、火山のリスクが紹介されており、次に、これら個別のリスクに関する地域別ハザードマップが、過去の自然災害の事例と合わせて解説されています。全ページカラー印刷で、写真やイメージ図が多用されているので、視覚的にも理解しやすい内容になっています。一頁目から読み進めるのもいいですが、地域別ハザードマップから徳島県や出身地域を見つけ出し、自分の周辺地域のリスクを知ることから初めてみてはどうでしょうか。詳しい市町村レベルでのハザードマップは、本書で紹介されているウェブサイトから得ることもできます。ハザードマップ上に見つけた自分の居住地域が、危険度の高い赤色で塗りつぶされていることに、あらためて驚き、不安を感じるひとも多いと思います。是非、自然災害にどのように備え、行動するのか考える機会にさせていただければと思います。もちろん、リスクが示されていない地域が絶対安全というわけではありませんし、リスクが高い地域が必ず被害を被るわけでもありません。正しく理解し、判断するためには、地震や津波などの自然災害がどのようなメカニズムで発生し、その結果どのような被害が生じるのかに関する書籍を読み、最低限の知識を備えておくことも不可欠だと思います。

教員を目指す皆さんには、さらに、児童生徒を災害からいかに守るのかを考えていくことが求められていると思います。学校教育現場での「防災教育」への取り組みを紹介した書籍、例えば、『生きる力をはぐくむ学校防災（学校防災研究プロジェクトチーム、2013）』なども参照されることをお勧めします。

